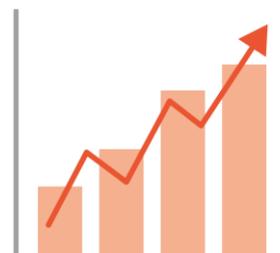


学年末考査も終わり、いよいよ3月です。高校生活1年目は自分の成長を実感できるものでしたか？この一年の取り組みが、来年の結果、そして卒業後の進路につながります。

## 学力はいつまで伸びるか

14日土曜日に保護者対象の進路説明会がありました。進路指導課の山口先生から、大学入試は早まっている傾向にあり、高校教科書レベルの学習内容が理解できていることは大前提で、さらにどんな体験をしてきたかが重要になるという話がありました。さらに北井先生から、明峰高校生の学力の伸び方についての特徴を話して下さいました。明峰高校生は、1年から2年の境目、2年から3年の境目に成績を落としてしまう生徒が多いことや、2年生の秋までに偏差値をある程度伸ばしておかないと、それ以降の偏差値の伸びは難しいことなどの分析がありました。



2年生の秋までにある程度の偏差値の到達が見えてくるようです。そして3月のあまり授業がないこの時期の学習が成績伸長のカギになっているようです。まずは、2年生の成績のベースとなるスタディサポートにしっかり取り組みましょう。いつまでも子どものままではられません。生き方に責任が生まれてきています。

## 校内の大人の方に挨拶をしよう



昨今は、見知らぬ大人に挨拶すると、思いもしないトラブルに巻き込まれたりするので敢えて挨拶をしない場合も多いようです。では、校舎内について考えてみましょう。校舎内には、普段皆さんに接している私たち担任や授業担当、部活動顧問の先生方以外にも多くの大人がいます。他の学年の知らない先生方、事務部の方、学務員の方、図書先生や、購買の方といった学校関係職員以外にも、保護者の方や業者の方、中には進路指導室のお客さんとして大学の先生方もいらっしゃいます。そして最後まで校舎内に残って警備をして下さる警備の方もいます。

少なくとも校舎内にいる大人は、皆さんのために力を尽くして下さいます。自分から挨拶をしてみましょう。恥ずかしい気持ちの残る幼い心をさりりと脱ぎ捨てて一度挨拶してみましょう。本当に脱皮したように感じるはずですよ。

## 生徒会役員選挙

先日生徒会役員立候補が締め切られました。1年生からも多くの生徒が生徒会に立候補しているようです。何か組織のために企画し、運営に携わることは難しいことですが、大きな成長にもつながります。1年生で生徒会に携わった生徒を中心に来年、そして3年生になった時の明峰祭の中心となって活躍していくことも多いです。皆さんが3年生になる頃には創立50周年記念の式典が控えています。全員で明峰高校を盛り上げていきましょう。

## 命の大切さを学ぶ教室

卒業式がある週の6日の6限7限に、1、2年生合同で「命の大切さを学ぶ教室」があります。神奈川県から小森美登里さんという講師の方がいらっしゃってお話をして下さいます。皆さん一人一人が大切なかけがえのない存在であること、そしてかけがえのない大切な一人一人をお互いに尊重する大切さを学びます。



## 究める課題研究発表会

3月15日(日)にサイエンスヒルズ小松にて、小松高校主催の「究める小松校外発表会」に本校から19組、1年生は9組が参加します。9月以降準備してきた探究活動の発表会と交流会があります。課題探究は近年推薦入試で何をしてきたか、探究を通して何を学び、将来何につなげていきたいかなどを問われることが多い分野です。選ばれた9組のグループは、26日の石川県立大学の中谷内先生の指導のもと最後のブラッシュアップをしましょう。また、当日の参観歓迎です。

## 小松警察署の講演会・卒業生による講話

16日の4限目は小松警察署の講演会があります。4月から自転車の交通違反に関する新しい制度適用の講演会があります。7限目は、国公立大学前期試験合格をした3年生も含めて、卒業生が進路実現までの体験を語る講話を行います。実際に取り組んだこと、葛藤や悩んだこと、うまくいった工夫、そして今だからこそ伝えたいアドバイスを聞くことができます。

## 球技大会

17日は、1年生最後の行事の球技大会があります。体育の時間に練習をしていると思います。間に高校入学学力検査などがあるので練習は限られていますが、このクラスでの最後の行事になりますので、しっかり楽しみましょう。



リレーコラム

第10回『ナウマン・鷗外論争』 担当：安田先生



先日、新潟県糸魚川市にあるフォッサマグナミュージアムを訪れる機会があり、そこでドイツ人地質学者エドモント・ナウマンの生涯と題する小冊子を手に入れる。

ナウマンの経歴を簡潔にまとめたもので、彼の日本における地質学の功績を綴っている。日本列島に生息していた第四紀の象はナウマンゾウであり、また、我が国のほぼ中央を南北に走る大陥没地帯をフォッサマグナと

命名したのも彼である。日本の地質学の発展に寄与したことは間違いない。

しかしながら、彼の日本に対するとらえ方や態度にはいささか同調しかねるところがある。それについては、自分が大学1年のときの地学の講義のひとコマが思い出される。講師は地質学の権威松尾秀邦教授。松尾先生のナウマンに対する評価は斬新なもので、今でもその内容は印象深く記憶に残っている。

ドイツ人地質学者エドモント・ナウマン。どのような人となりであったのであろうか。

今回の小冊子にはそれをひもとく有効な書籍「若き日の森鷗外」（小堀桂一郎著）が紹介されていた。

文豪森鷗外が20代のとき、官費留学生としてドイツに滞在し西欧の学術文化を吸収研究している折、当地にて地質学者ナウマンと日本文化及び東洋思想に関して、新聞紙上で論争をしているのである。

いま、その書籍が手に入り、そここのところを興味深く読んでいくところである。

日	曜	日程	令和7年度3月予定
1	日		
2	月	A	テスト返却（LH） 卒業式準備・予行・同窓会入会 LH
3	火	A	卒業式（1年生自宅待機）
4	水	B	令和8年度前期生徒会役員選挙
5	木	B	1～5限授業 成績確認
6	金	A	命の大切さを学ぶ教室（6,7限） LH
7	土		
8	日		公立大中期試験開始
9	月	A	1・2限スタディサポート 午後放課
10	火		学検①
11	水		学検②
12	木		生徒代休（←8/28） 国公立大後期試験開始
13	金	A	1～4限スタディサポート 午後放課 LH
14	土		
15	日		究める課題研究発表会 in KOMATSU（サイエンスル）
16	月	A	小松警察署講演会（4限） 卒業生による講話（7限）
17	火	A	球技大会・生徒総会
18	水	A	
19	木	A	教科書・補助教材販売
20	金		☺春分の日
21	土		
22	日		
23	月	A	1・2限授業 新1年生仮入学
24	火	A	終業式・離任式
25	水		
26	木		
27	金		
28	土		
29	日		
30	月		
31	火		



Keep smiling, keep shining!

笑顔を保ち、輝き続ける生徒の活動を毎日更新中

小松明峰高校